



令和5年産早期水稻について



水稻
田代 好幸
農畜産課
0969-22-1105

令和5年産の早期水稻の準備が始まる頃となりました。4年産については、病害虫及び異常気象を受け収量・等級に大きく影響した年となりました。令和5年産の対策として、いもち病・害虫の農薬等の変更、水稻栽培こよみの見直しを行いましたので、活用下さい。

健康な稲を作るには、適正な育苗管理と適正な水管理を行うこと、そして土作りが重要となります。

また、昔から「苗半作」と言われています。早期水稻の場合、気温が低い厳しい条件下での田植えですので、苗の良否が初期生育に大きく影響します。品質の良い米づくりのために、健苗の育成に努めましょう。

本田の準備については、堆肥や土壌改良資材を規格数量の投入と、作土を15cm以上確保するよう心掛けて下さい。

健苗の育成

種子は充実した、健全なものを使いましょう。そのためには必ず種子選(比重選)を行って下さい。(比重 水10 ットルに塩2kg)

病害虫防除のために種子消毒 (エコホープDJ200倍液に24時間浸漬)と育苗箱の洗浄を行いましょ。

早期水稻の育苗日数は25日程度ですので、田植え日から逆算

して播種日を決定しましょう。2葉苗～2.5葉苗の場合の播種量は乾籾で150 (催芽籾では180g)が基準となります。播種に最も適しているのは、ハト胸状態の時です。そのためには十分に浸種を行って、水の入れ替えと1日1回は攪拌して水温が均一になるようにしましょう。

本年より、播種時に苗箱のみにカスミン液剤を噴霧散布し覆土をする事で、いもち病・もみ枯れ・立枯枯れの細菌性病害対策となりますので、実施して下さい。

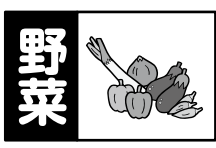
水田の準備

(※一発肥料の施肥量について)

特別栽培米用の一発肥料(元肥)の散布量は10a当50kgです。尚、注意点と致しまして、田植同時の側条施肥を実施の生産者の方は、1～2割の減量にて散布をお願いします。

本肥料を利用の際は、活着肥料の使用は控えて下さい。早晩性や花の大きさとの相関はありません。

栽培圃場の光環境や栽培技術によって、安定的に栽培可能な品種の範囲も異なります。個別に比較検討して、品種選定を行ってください。



シシトウ・甘長とうがらし栽培



野菜
平田 優輝
下島営農指導センター
080-1729-1639

露地栽培

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| シシトウ | △ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 甘長とうがらし | △ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ |

定植：△ 収穫：■

定植

1. 植穴は、苗鉢よりもやや大きめにし、50～70cm間隔であける。
2. 定植苗は、第一果房が開花する3～4日前の若苗を定植する。
3. 定植時には、アブラムシ・スリップス対策としてスタークル粒剤を1株当たり1～2g植 穴処理する。
4. 定植を行う際は、鉢土の上2cm位が見える程度浅植えする。
※植え付けが深いと白絹病や疫病の原因となる。
5. 定植後、初期生育促進の為に、株元に液肥灌水する。
6. 定植後、直ちに支柱に誘引する。

定植後の管理

1. 定植後7～10日頃までは、鉢土が乾燥しないように株元に灌水し、根の活着を促す。
2. 活着後は、徐々に灌水量を減らし、根を深く張らせる。
3. 第一分枝以下の果実・脇芽は、早めに取り除く。
4. 定植後20日前後までに、本支柱及びネット張り(2m間隔)を行う。

整枝・誘引

1. 整枝は、出来るだけ中心に光線が入るように摘芯する。
2. ネット張りは、樹の生育に合わせて行う。高くなった場合は、2段目を張る。

施肥量

シシトウ 10a当り/kg

| 必要成分量 | N | P | K |
|-------|----|----|----|
| 元肥 | 30 | 25 | 30 |
| 追肥 | 10 | 10 | 10 |
| 合計 | 40 | 35 | 40 |

甘長とうがらし 10a当り/kg

| 必要成分量 | N | P | K |
|-------|----|----|----|
| 元肥 | 15 | 20 | 15 |
| 追肥 | 15 | 15 | 15 |
| 合計 | 30 | 35 | 30 |

詳しいことは各地域の担当者、又は栽培講習会等でお聞き下さい。





2月、3月の柑橘園管理

果樹

原口 悠貴
下島営農指導センター
080-2725-7775

1.土づくり

良い作物作りはまず健全な土づくりから始まります。下記の表は10a当たりの目安量となりますので、表の基準を参考に投入してください。

| 時期 | 資材名 | 10 a 当たり | 備考 |
|---------------|-----------|----------|--------------------------|
| 2～3月 (収穫後) | 堆肥 | 2,000 kg | 完熟物 |
| | 客土 | 4,000 kg | 3cm以内 |
| | ヤシガラ | 20袋以上 | 2キュービック (120ℓ / 11kg) |
| | 土の恵み | 12袋以上 | 堆肥・ヤシガラの代わり |
| | 天然フルボ酸(粒) | 3袋 | ミネラルバランスの調整 |

2.葉面散布

まずは樹勢を回復し、その後花芽分化促進を行いましょう。

| 目的 | 薬剤名 | 希釈倍数 | 備考 |
|------------|----------------------------------|------|---------------------|
| 樹勢回復 | 尿素又は アミノジューシーN14 又は神協スピリッツ | 500倍 | 収穫後 3回程度 集中散布 |
| 花芽分化 促進 | ファームメント 又は ジューシーエース | 500倍 | 樹勢回復後 3回程度散布 |

3.病害虫防除

| 対象病害虫 | 品 種 | 農薬名 | 希釈倍数 | 散布液量 (100ℓの場合) | 備 考 |
|--------|-----------------------|-------------|------|-------------------|-----|
| かいよう病 | 温州 中晩柑 | IC ボルドー 66D | 60倍 | 1,666 g (ml) | 発芽前 |
| 花芽分化促進 | ファームメント 又はジューシーエース | ハーベストオイル | 80倍 | 1,250 g (ml) | 発芽前 |

※かいよう病防除はムッシュボルドー (DF) 500倍も使用可。(散布液量100ℓの場合200g)

※温州ミカンで12月にハーベストオイルを散布していない園では、発芽前に80倍で散布。

4.施 肥

| 栽培タイプ | 肥料名 | 品種名 | 施肥時期 | 10 a 当たり |
|----------------|---------------------------|---------------------|------|----------|
| 全 | 炭酸苦土石灰 | 全品種 | 2月上旬 | 10袋 |
| 超省力化 (年1回) | 新有機中晩柑一発 (13-8-7-2) | 河内晩柑・清見・甘夏パール柑・デコポン | 2月上旬 | 10袋 |
| 省力タイプ (年2回) | 新アグリロング 28号 (12-8-8-2) | 河内晩柑・清見甘夏・パール柑 | 3月上旬 | 5袋 |
| | | デコポン | | 5袋 |

※(NPKMg)の成分量



子牛の冬場の管理について

畜産

井上 正一
黒毛牛検定センター
080-1729-1626

冬場は子牛のトラブルが発生しやすく、厳しい環境の中、へい死事故につながることもありますので、ここからは子牛の冬場の管理について注意点を述べていきます。

分娩時

子牛の分娩直後ですが、体表は羊水などに濡れた状態ですので、母牛が子牛を舐めることによって体温の放散が防がれますが、濡れたままでは、子牛の体温が急激に低下します。母牛が舐めない場合にはタオルや新しいワラなど子牛をマッサージして体表の乾燥と活性を促す必要があります。出生子牛の低体温は その後の発育に大きく影響するため必ず防いでほしいものです。子牛は抵抗力のない状態で生まれてきますので、出生後はなるべく早く、またなるべく多くの初乳を与える事が重要です。

育成期

代用乳給与については基本として「定時、定量、定温」と言われています。

子牛が代用乳を飲むときの温度は季節を問わず一定ですので、外気温の低い冬 場は代用乳を溶かす温度に注意する必要があります。

またスターターや育成飼料を十分に採食させるためには飲水が大事ですので、凍結防止等で飲水量を落とさないように注意しましょう。

また、濡れた敷料と乾燥した敷料では体熱の放散が格段に違うため、敷料をこまめにチェックして交換することも重要です。また、牛舎用のヒーターの設置・防寒ジャケットやネックウォーマーを使って保温対策も有効です。

日中の暖かい時間は換気して、呼吸器病の予防に努めましょう。

もうひとつ大事なことは栄養の充足です。寒い時期の子牛は被毛が立っていることがありますが、これは寒さによる熱の放散を防ぐものです。また真菌症の発生が多い場合も栄養不足が推測されます。

上記の注意点に気をつけられて適切な飼養管理で子牛の疾病・事故を防ぎましょう。